

# 職場環境について -医療崩壊をふせぐために-

座長 山崎麻美

第62回国立病院総合医学会  
(平成20年11月12日 於東京)

IRYO Vol. 63 No. 9 (559-560) 2009

## 要旨

医療を崩壊させないで、変革するためには、医療の職場環境改善に、真剣に取り組む必要がある。産業保健活動、メンタルヘルス対策、女性職員勤務環境改善、看護師の交替勤務のストレス、患者等からのハラスメント対策、管理者の役割などについて議論した。医は仁術であるという精神や、博愛と奉仕のナイチンゲール精神は、医療の規範・倫理・精神であり、それを継承し、守るために、われわれの職場環境・勤務条件を改善すること、このことが私たちの急務である。

キーワード 医療危機、メンタルヘルス、患者等からのハラスメント対策、勤務条件の改善、女性職員

現在、医療崩壊という言葉が大きく取り上げられてきています。医療が崩壊しようとしているのかどうかは別にして、今までになかった大きな転換期を迎えていることは実感できます。新臨床研修制度の開始に端を発して浮き彫りにされてきた『医師不足』の問題は、長年の医療現場の課題を一挙に露呈する形になりました。

『医は仁術なり』とは、「医は、人命を救う博愛の道である」という精神で、長く日本の医療倫理の中心的標語として用いられてきました。また、私がまだ若いころは、「患者さんが悪くならずとそばにいないといけない」と自己犠牲的献身を、医師の資質のひとつとして求められてきました。また医療者の中で大多数を占める看護師は、博愛と奉仕のナイチンゲール精神を、その精神的規範としてき

ました。重症患者がいて、何日も家に帰れないような生活や、当直で急患がいて一睡もできなかったことを、一人前の医師になった勲章のように語ってさえいました。しかし、それを持続させるには、何かを犠牲にしなければ不可能だったことも確かです。

医は仁術であるという精神も、博愛と奉仕のナイチンゲール精神も、その精神は正しく、決してそれを否定するものではありません。むしろ永遠に目指すところであることに変わりはありません。しかし、それが個々の医療従事者の献身的努力や生活の犠牲の上にしか成り立たないと考え、それにのみ頼ってきたから、われわれは疲弊しているのかもしれない。新臨床研修制度の開始に端を発した医師不足問題は、このことを明らかにしてくれたのかもしれないと考えています。

国立病院機構大阪医療センター

別刷請求先：山崎麻美 国立病院機構大阪医療センター 副院長 〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14  
(平成21年5月12日受付、平成21年7月10日受理)

Improvement of Working Conditions for Preventing Disruption of Medical System  
Mami Yamasaki, NHO Osaka National Hospital

Key Words: crisis of medical system, mental health, measure for the harassment from patients, improvement of working condition, female medical personnel